

町長にも申入れはした。

田村氏等、三鷹市を加入するが、

不埒、新は通過して

瀬古、選挙競馬は民意にかなわぬが、

木崎、それは判る、競輪は市は指定、町も指定、この間、簡単に指定して方針である。

町長、町財政の窮乏は由るが、この町は三月には事業を遂行せし現状になる。吾等は少し

でも財政状況が、わらわら来る方があればよい、あるが外にはない、この様子現状と

よく知っている地方課で百%駄目であるとは全く暗い所、計り込まれる感いた、

町と町事業の縮小、急には出来ない、競輪と町でそうかんかんは格闘、これま

い、新で指定する、福生を加入せざる条件、でも町で戻したと、異知と云つた。

木崎、それは不、他を町村より、町へ運動する、根本でそれより新と、口添え位を

う出来る。

改泉、浅川、思方等、今年、指定され、なす、これに代つて割込を、これは出来ないが。

木崎、それは出来ない、条件がなくては、

瀬古、来年は平四間と南であるが、
木崎、それは決まらな、

不埒、退場

橋本、大体駄目かと思れば、今日来庁は、一まかつたら、様子と見に来る、ではないか、

西村、木崎氏の言と全然無関心に取扱ふのは出来ぬ、一応課長の会では、つまり、聞きた方

か、い、

田村氏、一応決議、一書類だけを提出する方がよい、

町長、議案のことについて相談、そのうち、表に決議、その方があつて、このことがよくてよい、ではないかと

云つて、それは、新に提出、する書類を決議するがよい、と云ふ、

田村氏、あつて、このこと、は、

町長、かたがた考えた場合、例えば、立法部と執行部がうまく、ゆかぬ場合、起る、当然、金には、そう

言ひ、しては、い、

西村、町民に表面的に出すより、裏で決議、その方が、無難では、ないか、と云ふ、と云ふ、

田村氏、決議した方がよい、かえつて誤解、とまわぬ、

西村
それは標頭が悪いのである。

西村書類を出すことを決意し、いふまでも得心のゆくまで課長及びその他の者に話を肉々

田村幾太郎
提議——そんとうま責任あるが、最初から下務着にすれば、こんな流しは出さなかつたのではなか

つちかとも思はれる。

政治工策であるところから

目的は政治改革に在りたるのみ

議長 田村幾太郎氏、意見に賛成か。

議長
委員が関係官庁に出かけて各角度から調査することにより決定

町長、眞屋の件は倉五万町と小田氏が云つたが三万町と云うので二万を差引ると

であるから、 Δ である。

助
役
明日
歳
あ
う
来
て
設
計
し
て
け
る

至急開業——取り急い

遺族會の件

経ヒ、 $\frac{5}{10}$ 町その他より、 $\frac{1}{10}$ 町であるが、いくぶん削減出来るものがあると思ふ。

未引揚者家族^{原心}と計画申入。入百円で計画を立てるから宣教と明瞭

一、

午後五時五分閉会

25

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	協賛会 4. ✓	✓	欠	✓	✓
船木甚平	村尾種吉	野島毎	貫升伊作	中野七五郎	高橋三郎	瀨古清藏	設樂美知	田村福一	井上頼太郎	森田喜一	石川武雄	田村政一
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
中道 4. ✓	✓	✓	欠 x	✓	o	o	o	✓	✓	✓	✓	欠
高橋彦市	田村利一	西村節	村尾四郎	村野盛一	村野喜平	鮎沢美代子	森田誠重	田村幾太郎	井梅泰輔	橋本雄一	森田幸藏	並木竹松

福生町議會議員名簿(昭和26年10月26日定臨例会)

町議会協議会

昭和二五、一、二五

町長ノ十七日。晩と昨晩火事あり。あつた。一軒である。十七日は現因不明

昨晩のは火の廻りも早かつたが放水も早く、大層に勢つた。原因はパン焼窯の火熱と通い
午後町本筋から検査に来る。

町民運動会は十八日。福生町堂グラウンドで挙行する。

未復員の家族は町に知らせる。来年内に慰安する。

戦死者遺家族の慰安神社多拝は、二十九日人員百六七十名位。

町立学校の通学区域の中より、十月日。移動と同時に町立小学校が、三教名転校の型
式で入校してくる。

町立学校の通学区域の通学区域決定の体は、昨日の建築委員会では正門に對してと決
まつたがどうか。(圖と書いて説明)

議長。まづこの道路と取り付けることは決定する。旨と上げらる。

町立学校の通学区域は、三田兵舎のあつた所は、除外されていふと思ひが、今度の通知に

よるとオ三小学校の通学区域に入っているがどう云い訳か、

町長、それは議会の決議により、した。もし遺憾とするなら、四月頃より変更したい、三月迄は仕方ないと思ふ。

教育委員長、五五とはどう云うかは聞いていない。四月に変更すると、オ三小學校を転校してその内の生徒はすべて移動することになるからよくない。

町長、八月十日の協議会に出ている。

喜橋三平、四月に変更するよりその間その地区内に入る生徒はオ三に残して置くこと。

町長、どう云うかは出来た以外の地区との関係もある。若しどうもよくないなら、現在の中

學校をオ三學校に転用すると同時に学区制の変更を申請する。

貫井、熊川、牛浜分の踏切り、道でひに上水迄をその時一諸の学区制の変更して頂きたい

町長、教員の都合もあるが、そこには出来たない

議長、新学区制の変更はいずれ研究することにして、その話した三角地帯をどうぞと決ま

しこれは本議会にて決まらして貰う。異議なきかと。議長、今一語もその旨決定する旨と云う。

◎オ三小學校の進捗状況説明

野島議員、工事の進行状況を云々。前より係員の来校を得て検査を実施した。

た官、大工の敷束完成の処分もあるが、竣工検査をして頂くと、未了の処分が完成次第で使用し

て頂いてほしい。整地がすまぬと、基礎の二めりが出来ない。それと建具の内敷分が月末

までかかる。一日迄は内合、整地は十九日に行ふ。また、中庭の整地はトングを要する。

正門の位置はしんより一尺五寸位低い。此の上を何処かもうもつてくるか困っている。

請負金は設計変更し現在迄に、一六〇七、九六五円とまっているが、これは、下駄相する、

防火戸の部品で十三、三〇円を要する。と思ふ。工事金その他、貸付金、三、五〇万円は別に

て契約金五十万の円位残っている。

町長、当初契約一五七、五〇円以上設計変更増減あり、三、七二、九六五円追加。と云う。オ三小町野

島議員が云々十三、三〇円を要すると思われ。合計一六、〇七、九六五円位と云うと思ふ。

井極、土盛り工は別の契約か？ 校庭内のけいやはは相当の土を必要とする。別に工事を分所

があるか、南側の排水を地の中へ落とすかと思ふ。が、玄關前のけいちはもうわけるには相

当の工がある。

現在米軍基地から石炭が相当出てくるが、これとどういふ関係があるか。

本林誠室、玄南の土はどうか？、これも大なる石はない。残土の度合を見てやるか、どうか。

野島、グラウトの通じる道路を修理した際、土と玉石と自動車でガスリ、代位出さうか、とも話が出てゐる。

本林、松林中、道路修理は社を施工してやる、と云つてゐる。

井極、貯水貯も早く造つて頂きたい。

ヶ、故の竣工検査を終了して、まだ引渡してない。一日に引渡して、さうか、全員現地に

集合して頂きたい。

七日に落成式を、今迄一五七万円で、地資は五百万円、で業者は四百万円、

損して、落成の報復金も、退き、委員会が相談して、田村組が契約金の、

おいて、五百万円の損、あと三百万円、純損失である。一五百万円の慰労金は、どうも、話も出て

ゐる。

西村、今の話、け、損の、額である。普通、五百万円で、適当である。一五百万円の欠損の

補填、とすると、それの、立証される、必要が、監督者に、充分、監査して、立証づけて、頂きたい。

ヶ、この金額は、了、調査した金額である。

野島、材木で五百万の喰違、あり、合、梁材の、まの、不合格品、また、互の、入替、大工、主として、

根切、五百万、喰違、より、砂、砂利、も、初めの、倍の、値上げ、大体、見積り、四百一十、万の、欠損

は、ト、ら、る、い。

西村、田村組の、請負技術、の、下手、がある。請負金額と、材料、に、割当、する、と、全く、寒心に、耐え、ない。

か、か、か、監督、も、そう、厳重、にする、必要、がある。損害の、補填、は、する、は、否、ま、は、一、ま、か、今の、話、

平野、田村組、の、申、出、がある、か。

ヶ、それ、は、さ、い。相談、の、糸、口、と、基礎、数字、を、示、した。

中野、現在、の、建物、材木、も、見、ても、一、二、三、万、円、では、どう、て、出来、ない、と、は、声、も、認、め、る、であ、ら、う。

本林、入札金額、は、

ヶ、か、才、田、の、入札、は、大成、一、八、三、五、五、千、円、西松、一、八、三、五、七、千、円、浅沼、一、七、七、五、千、円、銭、一、九、八、五、千、円、

田組、一、七、三、五、千、円、田村組、一、六、三、九、五、千、円、

田入札、では、大成、一、八、三、五、五、千、円、浅沼、一、八、三、五、五、千、円、田組、一、六、三、九、五、千、円、

西村 四百坪の欠指は田舎が頭初新議会え申しつゝいふべきである。今々やつて云々するは、どうかと思ふ。

田村組でも運命としてやると決意する。エー、と喜びながら、そうによつて、こゝも分あつた。

田
子
子

下長、通知云と言ふ。全頁承知は、いふ言である。

西村、船木氏の言は、大きいわけであつて、多数集りて頂きたい、
なと思ふ、私も承知はしてゐるが

勤め人の関係も考へては
子云

井上 主旨は皆賛成のようであるが、額と決まらねばならぬ。

井栢 あれをけつ大工を仕立てぬれどもは感謝たまふ。此社の意味からすれば当然をす

元

数字がふたつと、思ふ。
 $\frac{1}{2}$ が四つ、やつて、あつた
 $\frac{5}{2}$ が四つは、はるゝをやつて、
 かつた、を、 $\frac{2}{2}$ で考へ

慮にたり。

三橋、唯五〇月去すニ付うまふい
附第工をアるニ必要

瀬友、
「どう間が各々当と思ふ。三番札以上は出す。二はよくない。町民洗明するにも二は出る。」

町長、二番札との差額は、二四〇千円である。

船木
整地等の五土の用のはるゝを入りの同位出して
暗黙の由とみとめるゝ又
応貨出の型式で五土の用

出す
いすれに
も町民に
説明する
が
現在に
よるが
将来に
よるかの
問題を

言 確^{コト}ニ
三^ノ田^ノ仕^スる^ニ 五十^ニ万^ノ田^ノ支^ツ拂^フふ^ニの^ヲう^ケる^ニ 田^ノ村^ノ組^ニ さら、
整^ス地^ノの^ヲ坊^ノ合^ノ等^ノ米^ノ軍^ノの^ヲう^ケる^ニ 機^ノ械^ノ 正^ニか

リてやれば普通通りよく出来るが、あまりに前払い、そうすれば幾分でも補填出来る。

野島、今江戸金五万の円残、
 子いる、支拂はきいて、さうに五万の円組、
 ちうで、残る二万の円を報償

金として支給して、教正地とやうせる件^{（件）}をける、それか^{（が）}不^{（た）}能^{（た）}なら、担保と教正理すべき

西村野島氏の案に賛成する。

群島
町民に對し之を三日が越せるかといふと云ふやう
当然担保を整理すべきだ

田村 第一 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

いる。そこで担保と整理するが内題だ。とう二三回研究させて頂きたい。

野島 それもまだ議会の線と出して置るがよい。そう由参られたい。

議長 田村第一氏の案もあり、その一、引渡しの後、校舎に集合して決まらう。

建設費については百万円、敷地を含めて一五〇万円、どう考えようか。

野島 私もそう考へてゐる。運動場はトラックと百メートル走場をうんとあつて置くべきか。

中野 五〇〇万円、どう考へて置く方法は、

野島 それは一、二と決める。

議長 三月、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月、合計、

森幸、早く結論を出さう。

議長、議員の腹が決まらう。

議長、大体担保物件は、三〇〇万円、それと信用組合の抵当に入つて、自動車と二番

抵当として三〇〇万円と一、二、

議長、どうです。う位でもあせらう。

田村 第一 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

◎ 野島 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

村尾 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

田村 第一 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

村尾 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

◎ 野島 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

議長、専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

議長、専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

議長、専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

西村 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

議長、専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

西村 専向家へ謝辞も一ハツク田村はあつた云はれてゐる。野島氏はまけは四〇〇万円はあつた云々

あ
る
か

以上の通り

◎ 夜間職員人事異動報告

午後八時三十七分閉會

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
0	0	退 防	中途 退防	0	0	0	0	中途 退防	0	0	0	0
✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
船 木 甚 平	村 尾 種 吉	野 島 毎	貫 升 伊 作	中 野 七 五 郎	高 橋 三 郎	瀨 古 清 藏	設 樂 美 知	田 村 福 一	井 上 頼 太 郎	森 田 喜 一	石 川 武 雄	田 村 政 一
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
久 欠	0	0	0	0	0	0	久 欠	中途 退防	0	0	久 欠	中途 退防
✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
高 橋 彦 市	田 村 利 一	西 村 節	村 尾 四 郎	村 野 盛 一	村 野 喜 平	鮎 沢 美 代 子	森 田 誠 重	田 村 幾 太 郎	井 梅 泰 輔	橋 本 雄 一	森 田 幸 藏	並 木 竹 松

福生町議會議員名簿(昭和26年11月1日定額協會)

協議会

昭和三十一年十一月十一日午後一時於役場会議室

出席議員 標記通り

協議事項

一、小中学校受渡について

二、連合青年団へ二十四歳附の件

二、現在の財政事情報告

三、南行式の費用報告

三、連絡員手当増額陳情について

四、警察協賛会の件

四、南新道排水溝改修について(陳情)

五、銀座通りにも排水溝設置陳情について

六、第三中学校落成に伴い、請負業者への謝礼金について

七、落成式の日時変更について、及通学道路の件

八、小中学校へ贈呈すべき記念品について(船木議員提案)

九、小中学校建築監督者の報酬金贈呈について

十、競馬加入についての促進運動の件